

○東海大学海洋学部と連携した調査研究について

● 基礎調査（資料1）

水温・塩分・溶存酸素測定：平成31年4月以降以下の日にちに実施

4月7日、10日、23日、24日、5月7日、8日、21日、22日、

6月4日、5日、18日、19日、7月2日、3日、16日、17日

8月2日、3日、26日、27日、9月12日、13日、30日

クロロフィルa測定用サンプル採集：令和元年10月10日

底生・浮魚生物量調査：令和元年7月14日、8月20、21、22、26、27日、10月10日 ※COD観察については、他の化学分析（安定同位体分析）結果が揃ってから実施する予定としており、令和元年度としては実施しなかった。

データについては、別表2に記載

● 生物相調査（資料2 標本調査リスト）

基礎調査に合わせ、折戸湾5か所において、底生生物調査を実施した。これまでに合計107種の生物を収集した。

令和元年5月5日、7月28日、7月30日、8月24日、9月10日、9月28日に魚類相調査を行い、88個体の魚類標本を作製した。

底生生物と魚類については、一部の同位体分析を進めており、今後も継続する予定である（魚類27個体、無性対動物155個体、堆積物8検体、懸濁物15個体の炭素と窒素安定同位体比分析済み）

● アサリ採苗（資料3）

平成31年4月以降8月末までに、折戸湾内3か所にてアサリ採苗試験を実施した。8月30日に採苗装置を回収し、合計415個体のアサリの採苗に成功した。

● アサリ垂下式養殖試験（資料4）

平成31年3月14日に折戸湾より採苗したアサリ78個体をベースとして、7月31日から垂下式養殖試験を行った。試験は砂利のみのゲージとケアシエルと砂利を入れたゲージに各100個体のアサリを入れ、再干潮時の水深が1.3mとなる付近に設置し、生残率と成長率を比較した。

結果、両ゲージとも生残率は80%を超える高い値を示した。また、日間成長率も0.060~0.076 mmを示した（3月から7月までの表層飼育では日間成長率は0.055~0.056 mmであった）。

- 海浜ゴミ調査（資料5）

令和元年5月24日に水中ゴミ調査を、8月5日および9月3日に、三保半島において2地点において100ラインを設定し、漂着ゴミの収集と分類を実施した。

- 養浜による生物分布影響調査及び物質循環状況把握調査（継続課題）

令和元年6月5日、7月3日、7月17日、9月12日に養浜地において砂の形状変化と生物相変化について調査を実施した。6月5日には25 cmコドラートに平均殻長2 cmのアサリ数個体を採取したが、それ以降はアサリを発見することができなかった。

9月12日に、養浜部位半分の砂を新しいエコサンドに入れ替えた。今後、生物相の変化を追跡調査する。